

館報

庄内



庄内地区	
令和2年9月1日現在人口	
世帯数	7,038 戸
男	7,364 人
女	7,361 人
合計	14,725 人
発行	庄内地区公民館 (ゆめひろば庄内)
電話	24-1811
FAX	24-1812

コロナ禍の現状と苦悩  
町会活動の模索続く庄内地区

前回の館報では、地域の小学生、サークル団体、ボランティア活動実践者及び地域に住むお母さんから、ウィズコロナの中でどういう気持ちを抱いていたかについて特集した。これまで当たり前だった日常がいかに大切だったか、人と人とのつながりがいかに重要かについて、それぞれの立場で意見をお寄せいただいた。

では、各町会の動きはどうだろうか？どこもふれあい会食会や敬老会、夏祭りといった行事は中止や延期を余儀なくされているというが、そんな中でもどうにか工夫して行事を実施している町会もあるとの噂も。

今回の館報では、15町会の町会長に調査を依頼し、コロナ禍での町会活動や行事の実践事例等について回答をいただいた。



令和2年度上半期

新型コロナウイルスの蔓延が始まった今年2月頃は、丁度各町会や団体の総会準備が始まる時期であった。ほとんどの町会が今まで通りの総会を中止した。代わりに書面表決といって、総会資料を関係者に配布し、議案の可否を回答用紙に記載し返送する手法を取った。

春や初夏の行事については、春季一斉清掃、ふれあい会食会、サロン、敬老会、バスハイクといった行事はほぼ全ての町会で中止されている。会食会関係は、集まらない代わりにお弁当等を配るといった手法で会を実施した町会もあった。緊急事態宣言終了直後は実施を予定していた青山山様や松本ほんぼん等の市や地区の夏祭りも、結局お盆を待たずして到来した第二波の影響を受け、神事のみ執り行い、花火大会や屋台等は中止に追い込まれている。

活動再開のJUG問題

町会や公民館活動自体、人が集まるのが前提となっている。どの町会も、地域の拠点である公民館に人を集めることに様々な苦労があるという。中には町会活動に意義はないと事業計画の見直しについて意見が出た町会や、代替行事の検討、予算をどのように使うかについて悩んでいる町会もある。

また、せっかく行事を開催するも三密の不安から人が集まらなかったということもあったという。

令和2年度上半期は？

コロナウイルス感染の危険性を鑑み、当面の間全ての活動を中止すると決断した町会もあった。万が一のことを考えての判断で、町会役員で話し合ったという。

一方、何とか活動実施に向けて模索を続けている町会も、基本的な感染予防策として

知恵を出し合い工夫することが大切

今回の調査で寄せられた意見としては、「コロナを理由に何でも中止にしてしまう」とはよくない。知恵を出し合って工夫していくことが大事」「町会活動で飲食と歓談ができないと親睦や絆を深めることが繋がらない」という声も挙げられた。

#WISU

館報編集委員会では、コロナ禍における町会行事だけでなく、ウィズコロナの生活や人の考え方についても議論を重ねた。

厄介なのはコロナウイルスの感染だけでなく、コロナに絡んだ誹謗中傷や必要以上に活動を委縮してしまうことではないだろうか。

正確な情報と、それを元にした議論が必要である。しかし、現状では国や県から伝えられる情報しかなく、実際できることも限られてしまっている。

公民館の窓口には、町会長だけでなく、様々な団体で運営を担う方からの悩みが寄せられる。「本当は活動したいけれどやれることがなくて困っている」「活動をやってもやらなくても不満が出てしまい、どうしようもできない」と誰もが声を落としていた。

町会主導の活動は仕方ないとしても、せめてサークル活動程度の集まりで「活動をしたい」と考えている方々については、どう期待に込めることができるか、どういったサポートができるかを、突き詰めていくことが大切ではないだろうか。

現時点では第二波の終息目途は立たず、少しずつ冬に近づいている。皆で話し合い、よりよい方向を見つけていきたい。

勉学に励む児童・生徒

### 公民館自習室 大好評!

普段は大人の集い場や学習の場として活用されている庄内地区公民館の1部屋を、8月3日から14日までの9日間、平日9時から5時まで子どもたちのための「自習室」として開放した。夏休み中の子どもたちの宿題がはかどるよう、公民館事業として企画された。

計画時は「それほど人数が集まらないのでは?」「子どもたちが遊んでしまい勉強にならないのでは?」といった懸念や、初の試みということなどで当初は3日から6日までの4日間としていたが、その間だけで延べ36名もの児童・生徒が訪れ、誰も騒いだり遊んだりすることなく、黙々と勉学に励んだ。そこで、当初の予定を変更して期間を延長した。多い日で14人もの利用があり、参加児童からは「冬や春休みもぜひ自習室を」との声が寄せられた。

公民館としては、今後学校が長期休校となる期間は自習室を設けていくことや、地域の方に見守りボランティアが可能なかどうかを探っていく。



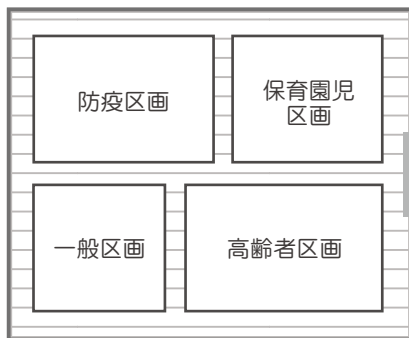
公民館関係職員独自の防災活動

### ゆめひろば庄内避難所開設訓練、実施される

8月22日、ゆめひろば庄内避難所開設訓練が行われた。台風等が発生した際は、ゆめひろば庄内が「局的・短期的避難所」として、水害の危険性がなくなるまでの間の避難先となっている。そこで、公民館職員らが自主的に訓練を計画し、関係職員12名が3階の庄内体育館に集まり、訓練を実施した。

最大勢力到達時間を逆算して安全な時間帯に住民が避難できるようタイムラインをイメージしつつ、新型コロナウイルス感染症対策や高齢者のための配慮、隣接するさくら保育園の園児が避難することを考慮した避難所レイアウト訓練や、身近な道具を防災に役立てる方法等、避難所開設時の問題の洗い出しといった検証も兼ねて行った。

新型コロナウイルス感染症対策では、キャンプ用のテントを体調不良の方の収容先として検証した。計画段階から懸念されていた専有面積に対する収容人数の少なさが浮き彫りとなった他、体調の悪い方と健康な方を体育館内に同時に収容



体育館内のイメージ図

すべきでないという、国や県の指摘事項の重要性を改めて確認する。  
高齢者対策としては、足腰の悪い方への配慮と、コロナ対策で求められる社会的距離と飛沫防止を同時に解決するため、机と敷きタンボール(1×2m)を用いた「複合間仕切り」を考案し、実際に組み立てた。完成後は保健師やアドバイザーとして見学していた危機管理課職員から、コロナ対策としては効果があるのではとの意見が寄せられた。しかし、一度設置してしまっただ後に大人数の避難者が避難してきた場合、別の場所への移動や再組み立てが難しいのではといった課題も出された。



▲テントは専有面積の割に収容人数が少なく、避難者持参時の対応も今後の課題に

公民館で考案した簡易間仕切り。敷きタンボールは汎用性が高いのではとの意見も▼



### 実践の重要性を再確認も、様々な課題が浮き彫りに

訓練参加者からは「避難所のレイアウトが頭に入っていないれば、設営は短時間で済みそうだが」、「様々な避難者の世帯状況を想定し、臨機応変に対応するためにも、訓練や経験値の蓄積が重要」と、訓練の実施と継続していくことの大切さを実感する声も寄せられた。課題としては、コロナ対策で収容人数が100人程度になってしまつことや、準備時間の短縮、換気方法、暑さ対策等が挙げられた。公民館

では、今回の訓練を元によりハード・ソフト両面から研究と訓練を継続していく。



複合施設・指定避難所及び地区公民館としてゆめひろば庄内が開館し、はや14年が過ぎようとしています。強い雨風になるとロビーの床が水びたしになり、地下にある主電源がダウンしないように、職員がモップやほうきで排水作業に追われていました。歴代の公民館主事が、市の担当課に改善の要望を幾度となく上げてきましたが良い返事を貰うことができませんでした。

筆者が浸水の改善を市に要望したところ、雨水が浸入する「北側入口庇の一部に厚手の幕を取り付け、風の影響を調査した上で具体的な対策を検討する」と回答がありました。現在は幕の劣化が目立ち始めて風になびいています。担当課に出向き、改善要望を申し込み、担当者から前向きな回答を頂けるようになりました。安心して避難できるゆめひろばであることを切に願うばかりです。 N・K